

Annual Report 2016

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2016



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 8

認定看護師教育課程 9

看護キャリア開発事業 13

看護研究支援事業 14

たちばなSIM事業 18

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座 22

資 料 27

資料1 2016年度「看護研究支援」研修ごあんない 28

資料2 『たちばなSIM 2016』のご案内 30

資料3 2016年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座 31

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

梶谷佳子

京都橘大学看護教育研修センターの事業は、2007年に認定看護師教育課程設置によって始まりました。皮膚・排泄ケア分野では2016年度で270名の修了生を輩出しています。

その後、本センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」ことを目指し、活動を継続してきました。看護専門職の継続教育として、看護研究支援、看護実践力の向上を目指すたちばなSIMの開催、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座など、看護職のキャリアを開発するためのプログラムを企画・運営して参りました。活動実績も増え、事業評価を行い、効果的なプログラムの開発を行う段階にきています。

京都橘大学の設置母体である京都橘学園では2014年度から「マスタープラン2022」が始まりました。社会のグローバル化と成熟化が進むなか、社会から学校に寄せられる期待はますます大きく、複雑になっています。このような背景において、2022年までの将来像と実行プランが策定されました。このプランを「マスタープラン2022」と言います。

本センター事業は、地域連携としてマスタープランの一つに位置づくと言えます。学部教育では毎年約100名の看護職を輩出しています。卒業後も知識・技術を高められるよう、一人一人が学び続けられる環境や機会を作ることが重要だと考えます。その一助となるようなプログラムを提供していきたいと考えています。また、本学卒業生のみならず、地域で活躍される看護職の方々の要請に応えられるような学習環境が整えられればと願っております。このような形で教育や研究のフィールドである臨床の場を提供して下さっている方々への恩返しができればと考えます。

先述しました、たちばなSIMにおきましては、卒業生とともに勤務する看護職への門戸を開くことを考えております。また、看護研究支援事業の発展型活動として、専門部署における新たな知見を研究論文より深く考察し、臨床の場において活用できるようなプログラム運用についても模索しております。さらに、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座に用いるテキストを作成し、より効果的な学習を支援する取り組みも進めております。

看護職としてのキャリア開発のために、本センターを大いに活用して頂ければ幸いです。今後も地域に拓かれた大学に附置するセンターとしての役割を意識しつつ活動の計画・実施・評価を行っていきたいと考えます。

本年報は、本センターの活動報告をまとめたものです。活動が一人よがりとなりませんよう、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願いいたします。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認

開催時期	内 容
2013年度 12月 19日	2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改定内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認
12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告
12月 10日	2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認 センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告
12月 13日	2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会

2014年	1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会
-------	----	-----	----------------

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会

2015年	1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

	4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
	10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
	11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
2016年	1月	6日	第7回看護キャリア開発委員会
	2月	10日	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

	4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
	6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
	8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
	9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
	10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
	12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年	2月	15日	第8回看護キャリア開発委員会

組織

2016年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
判 澤 恵	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇 野 育 江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
望 月 紀 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
伊 藤 恵美子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
神 崎 光 子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
西 村 美 八	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

看護キャリア開発委員会

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
河 原 宣 子	京都橘大学看護学部長	
堀 妙 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授（看護学科主任）
工 藤 里 香	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
植 村 由美子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
野 島 敬 祐	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
マルティネス 真喜子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
深 山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程研修について

2016年度認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野では、2.8倍の受験倍率を経た30名が入学した。倍率が上昇している理由として現在教育機関は全国で6機関と最盛期に比し半数であることに加えて、皮膚・排泄ケア分野は、診療報酬加算がつく実践内容が多いという点も、医療施設からの応募増の一要因と推測している。受験者は関東から沖縄まで範囲が拡大している。遠方からの受験者でも合格した場合は京都で学ぶ機会を選択してくれるようになった。

本課程は2016年5月17日(水)に始まり12月16日(金)を以て予定通りに約8か月の研修を終えた。研修は実践の基盤知識となる講義と技術を磨く演習を主としている。特に最近では技術的に浅い研修生も見受けられるため演習を含めたグループワークを増やす工夫で充実を図っている。

座学で理論を含めた知識修得の後臨地実習を行っている。ほとんどの研修生は実習をクリアしたが、1名が臨地実習中過緊張によるものか精神的に不安定な状況に陥り途中で離脱した。29名は修了試験を経て修了となった。修了生は通算270名となった。

2. 入学説明会実施

3回目の開催で、2017年度受験を目指している人々を対象に7月に実施し、61名が参加した。研修中の演習見学と応募要項記載上の注意点などを説明した。2017年度の入学試験には説明会参加者の41名が受験し、合格者は7名であった。

3. 修了者に対するフォローアップセミナー第5回を開催した。

2017年度からカリキュラムに医療安全管理が必須科目として含まれることから1期生から8期生まで講座がなかったため、テーマの1つは「医療安全」を、

他の1つは「職場における困りごとへの対処術」と題して対人関係関連の内容を実施した。2つのテーマは皮膚・排泄ケア認定看護師に限らない内容のため広く門戸を開放しすべての認定看護師を対象とした。

参加者は126名でアンケート(回収率94%)では、約90%が有意義だったと回答していた。中には、当センター企画のセミナーはいつも内容が良いので楽しみにしているとのコメントもあった。

4. 認定審査に対するフォローアップ研修について

日本看護協会の認定審査は2017年5月18日に実施される予定である。第10期修了生(2016年度)の認定審査全員合格に向けて、フォローアップ研修を実施予定(2月、3月、4月)である。

実践に必要な知識を確実なものとするをねらいとして、修了生が相互に問題を作成、解答と解説を行い、根拠を明確にして応用できるように取り組んでいる。研修終了が12月であるため、認定審査までの5か月間臨床での確実な知識習得とモチベーションを維持し、自身の目標を自覚して取り組むよう指導している。

5. 特別講演について

米国JWOCNの会長Ms. Carolyn Watts先生を招き、研修生と修了生に向けて「WOC Society:過去・現在・未来」と題して講演会を開催した。(日本創傷治癒学会に招聘され、先生の希望と企業の好意で京都でも開催)。アメリカにおけるWOCNの活動と将来性に対して知見を得ることができ、研修生からも質問が多く出て有意義なものであった。

6. 教員の専門領域の活動について

A. 【判澤 恵】

- 1) 京都橘大学看護学部4回生に、「ストーマケア」および「高齢者の皮膚ケア」に関する講義を2コマ実施（4月）
- 2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（査読委員・評議委員）6月11・12日（金沢市）研修生全員参加
 - ②第18回日本褥瘡学会学術集会参加（9月2・3日パシフィコ横浜）研修生全員参加
評議委員及び日本褥瘡学会危機管理ネットワーク近畿褥瘡地方会京都府危機管理連絡委員拝命
 - ③第46回日本創傷治癒学会（東大・真田会長）に参加した。
 - ④第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（2017年2月17・18日）名古屋市長ランチョンセミナー司会を担当した。
 - ⑤日本褥瘡学会近畿地方会において第14回（2017年）会長として2017年3月5日当該学会を京都市内で開催。
- 3) 「創傷ケア用品発売記念セミナー」において記念講演を実施した。（12月大阪ストーマ・創傷管理製品販売会社主催による）

- 4) 京都民医連中央病院において、4回のストーマ外来を実施した。

B. 【宇野 育江】

- 1) 洛和会音羽病院にて「排尿ケア外来」を実施した。（2回／月）
- 2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した
 - ①第29回老年泌尿器科学会学術集会（福岡）
 - ②第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（石川）
 - ③第18回日本褥瘡学会学術集会（神奈川）
 - ④第46回日本創傷治癒学会学術集会（東京）
 - ⑤第15回日本フットケア学会学術集会（岡山）
- 3) 2017年3月開催 第14回日本褥瘡学会近畿地方会（京都）事務局長を担当
- 4) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション講習会実行委員 兼 「ストーマケア用品」に関する講義
- 5) 日本コンチネンス協会 電話相談員として適時電話相談に対応した

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア分野 認定看護師 判澤 恵

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業 14

■たちばなSIM事業 18

■通信教育課程看護学コース

学修成果レポート作成サポート講座 22

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業

『看護研究支援』事業は、地域の看護職の支援を目的に、2012年度に開講した。この事業には、4つのコースがある。〔ベーシックコース〕は、看護研究の基本を学ぶコースである。〔プラクティスコース〕は、院内の看護研究に取り組むことを支援するコースである。〔アドバンスコース〕は、院外の学会での発表や論文投稿をめざすことを支援するコースである。そして、2014年度から開講した〔院内看護研究指導者コース〕は、院内研究を指導する立場の看護職を支援するコースである。これらの4コースで、対象者の学習ニーズに応じ、看護研究の実施を支援するプログラムを開講している（資料1参照）。本年度は、〔ベーシックコース〕と〔院内看護研究指導者コース〕を開講した。次に、本年度に開講し

たコース別に報告する。

1. ベーシックコース

1) プログラムの概要

本コースのプログラムは、看護研究のプロセスに添い、看護研究の基本について、7回で展開している（資料1参照）。開講は5月～10月にかけて、各回90分で展開している。担当者は、本学看護学部教員である（表1参照）。受講者には、本コースで作成しているテキストを事前に配布している。

2) 各回の受講者数

受講者数は2～3名であり、そのうちすべて受講したのは2名である（表1参照）。

表1 プログラムの概要および受講者数

学習項目	1)現場における研究	2)研究テーマの設定	3)文献検索	4)文献講読	5)文献講読	6)研究倫理と研究計画書	7)研究のまとめ方、公表
開催日時	5月10日	6月7日	7月5日	7月19日	8月2日	9月6日	10月4日
担当者 (京都橘大学)	伊藤	伊藤	松本	竹下	竹下	植村	堀
受講者数	3名	2名	3名	3名	3名	2名	2名

3) 受講の目的、理解状況

各回の受講アンケートをもとに、受講の目的、理解できたこと、理解しにくかったこと、受講しての感想をまとめた（表2）。受講者数が少ないため、回答数は掲載しない。

(1) 受講の目的

受講目的は、「研究をするにあたっての基本的なことを学びたい」「基本から学びたい」に加え、「看護研究を指導しなければならない」などであった。看護研究の基本や、看護研究を指導するための知識を学びたいという内容だった。

(2) 理解できたこと

理解できたことは、初回の〔現場における研究〕では、研究の「意義」や「必要性」など、2回目の〔研究テーマの設定〕では、「研究テーマを決めるための考え方」など、3回目の〔文献検索〕では、「文献検索の実際の方法」など、4・5回目の〔文献講読〕では「文献を読みとくためのポイント」「クリティックの方法」など、6回目の〔研究倫理と研究計画書〕では、「倫理の大切さと言葉の選択」など、7回目の〔研究のまとめ方、公表〕では、「発表における具体的な注意点・ポイント」などが挙げられた。いずれ

表2 アンケート概要

学習項目	アンケート項目	回答内容
1)現場における研究	目的	研究をするにあたっての基本的なことを学びたい 職場で看護研究をしなければいけないので、基本から学びたい
	理解できたこと	研究をする意義や必要性について テーマをしばっていくということ 実践知を伝えること
	理解しにくかったこと	なし
	感想	研究を強いられているように感じていたが、自分の成長の機会と思えた 看護も研究もセンスが大切 教える先生が資料を作成する方が良い 少し研究に対してハードルが下がった
2)研究テーマの設定	目的	看護研究の基礎を知るため
	理解できたこと	研究テーマを決めるための考え方
	理解しにくかったこと	なし
	感想	臨床での気づきを大事に、研究に取り組んでいきたい 研究の事例が難しかった
3)文献検索	目的	よりよい研究をするため 文献検索でなかなかほしい情報が得られないので、方法を学びたかった
	理解できたこと	文献検索の実際の方法、文献として扱うべきもの 「研究」は、臨床で強いられている研究とはまた違うものだとわかった
	理解しにくかったこと	研究の関連図の例がみたかった
	感想	パワーポイントと当日配布資料を同じにしてほしい 本来の研究をするのには、時間や業務の中で難しい
4)文献講読	目的	自身の学習のため 看護研究を実践するにあたり、基礎的知識を学びたい
	理解できたこと	文献講読の必要性 具体的に文献を読みとくためのポイント
	理解しにくかったこと	なし
	感想	クリティークを学ぶことにより研究をまとめていくうえで参考になった 文献を読むことが大切だとわかった
5)文献講読	目的	研究における学習・知識を身につけるため
	理解できたこと	文献講読の方法を理解でき、研究執筆の注意点などもわかってきた クリティークの重要性や方法 文献を実際に読むことで理解できること
	理解しにくかったこと	なし
	感想	文献を読み込むことの大事さ
6)研究倫理と研究計画書	目的	現在行っている研究に活かしたい
	理解できたこと	倫理の大切さと言葉の選択
	理解しにくかったこと	なし
	感想	計画書の書き方の理解が深まった
7)研究のまとめ方、公表	目的	看護研究を実施するにあたって、参考にしたい
	理解できたこと	発表における具体的な注意点・ポイント
	理解しにくかったこと	なし
	感想	発表にあたって心構えができた 内容が理解できた

の回でも、学習の重要ポイントがあげられた。

(3)理解しにくかったこと

理解しにくかったことは、「なし」という回答が多かった。

(4)受講の感想

受講の感想は、「研究を強いられているように感じていたが、自分の成長の機会と思えた」「臨床での気づきを大事に、研究に取り組んでいきたい」「計画書の書き方の理解が深まった」「内容が理解できた」など、看護研究について興味を持ち、日々の看護実践での気づきの重要性を改めて認識し、研究計画書の理解などの理解を深めていると考えられた。また、「本来の研究をするのには、時間や業務の中で難しい」といった感想のように、研究を行う難しさを感じている回答もあった。

4) まとめ

受講の目的は、「研究をするにあたっての基本的なことを学びたい」が多く、かつ、各回の受講生が2～3人と少数だったことで、受講生のニーズにより即した内容を展開できたと考えられた。

一方、「看護研究を指導しなければならない」といった、研究の指導・支援の役割を担うために確認を目的とした受講者もあった。本コースの受講修了者には、実際の研究プロセスをサポートするコースへの受講を促し、研究の実施および指導へのサポートの必要性が考えられた。

加えて、アンケートに、「本来の研究をするのには、時間や業務の中で難しい」といった感想があった。臨床現場での研究の実施にあたっては、限られた時間（期間）、費用を考慮しなければならない。研究の知識面ではなく、実際に研究を実施していくことに関するサポートの必要性が示唆された。

また、全7回を受講した受講者が2名いた。各施設

の看護研究の取り組みの実際などの情報共有ができる機会があると、共に看護研究に取り組む推進力になる可能性も考えられた。

看護学部看護学科 専任講師 植村 由美子

2. 院内看護研究指導者コース

1) プログラムの概要

本コースは、次年度にむけて、院内研究で各部署の円滑な研究活動をリード、サポートする指導者のための研修プログラムである。今年度は1名の参加者であった。

2) 受講の目的、理解状況

参加者は所属する病棟で実施される看護研究の指導者であり、「後輩の指導がうまくいかない」「文献検索が難しい」と日頃感じており、「余裕を持った研究計画とデータ収集をするための指導」の修得を受講目的としていた。

研修は90分×3時間行った。まずは研究の基本を振り返るため、ベーシックコースで使用しているテキストを用いて研究のポイントを説明した。次に、研究指導で重要である「テーマを絞る」ということに焦点をあて、研究初心者が看護研究に取り組む最初の一步の進め方として、日頃の疑問を話し合う方法、研究計画書の完成度を高めるステップを紹介した。最後に、文献検索に困難を感じていたため、医中誌、最新看護索引、Google Scholarによる文献検索方法を解説し、実際に文献を検索した。

参加者からは、「初めから研究計画書を書いてもらうことは初心者には難しく、共に話し合うことから始めることが大切であるとわかった」「丁寧に文献検索をしていこうと思う」といった反応が得られた。

3) まとめ

今年度の参加者は1名と少なかったが、その分、参加者のニーズに合わせながらコースを展開することができた。初めて研究をする看護職を指導することは、私たちが学生に研究を指導することと非常に似

通っている。この「初心者への指導」のポイントを伝えること、かつ臨床でしか得ることのできないデータを、いかに研究に活かしていくかを考えることが、今後の院内看護研究の発展につながるであろう。

看護学部看護学科 准教授 工藤 里香

■たちばなSIM事業

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム『たちばなSIM』を開催しており、今年で5年目となる。

参加した卒業生は、日々、忙しく臨床現場で働くナースだが、『たちばなSIM』では、学生に戻り、学ぶことを楽しんでいる様子が印象的である。懐かしい学び舎で、懐かしい教員が出迎える。受講者は同じ学部の卒業生ばかりで、共通の思い出がある人々。明るい雰囲気、リラックスして研修を受けることができる環境を作り出しているのが、本プログラムの大きな特徴である。それぞれの受講者にとっては、職場での看護実践や、悩みや戸惑いを気兼ねなく、安心して語り合える機会にもなっている。

本研修のプログラムの構成は、レクチャー→スキルトレーニング→シミュレーション→デブリーフィングとなっており、受講者が日々の看護実践での疑問を解決しながら、自己の看護実践のリフレクション（振り返り）ができるようにデザインされている。

今年度のプログラム内容は、毎年、好評である「循環機能のフィジカルアセスメント」、「呼吸機能のフィジカルアセスメント」と、新たな試みとして、一般病棟でよく起こる出来事、いわゆる“あるある”を取り上げた「急変対応（転倒/窒息）」とした。

第1回の「循環機能のフィジカルアセスメント」では、心電図モニター波形の理解に関するミニレクチャーの後、グループに分かれて電子黒板（Big Pad）に映し出された心電図モニターの波形を判読



図1 講義の様子

表1 2016年度「たちばなSIM」プログラム

回	開催日時	テーマ・内容	担当	場所	受講人数
1	5/15 (日) 10:00～ 16:00	「循環機能のフィジカルアセスメントと看護」 1)講義:不整脈と心電図について 2)ワーク:異常波形の判読 3)講義:心不全患者のフィジカルアセスメントと看護 4)シミュレーション	鈴木、野島、工藤、加藤、 角地、マルティネス	清優館 第1実習室	12名
2	6/5(日) 10:00～ 16:00 《オー プンキャ ンパス》	「気管挿管・呼吸音聴取トレーニング」 1)講義:呼吸のフィジカルアセスメント 2)呼吸音聴取トレーニング 3)気管挿管介助トレーニング	野島、鈴木、内田、中西、 深山、マルティネス	清優館 第1実習室	9名
3	7/31 (土) 10:00～ 16:00 《オー プンキャ ンパス》	「急変対応」 1)シミュレーション①:「転倒」 2)シミュレーション②:「窒息」	マルティネス、野島、鈴木、 木村 角地 (京都第二赤十字病院) 平井 (名古屋市立大学大学院)	清優館 第1実習室	10名

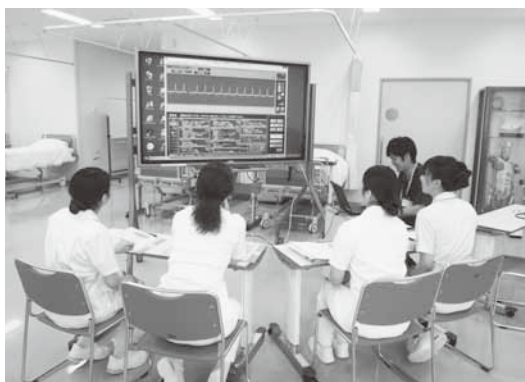


図2 モニター波形の判読

していくトレーニングを実施した。臨床現場ではじっくり心電図モニターをみて考える時間や余裕はないため、このような機会は受講者の学び直しにとって大きな意義があると考え。分からないところは、もう一度再生をし、受講者同士で教え合いも行われていた。少人数制であるため、質問しやすい雰囲気を作ることができていた。ディスカッションの中では、ただモニター波形を判読するだけでなく、実際の疾患や症状と結び付けたり、そのような患者と関わったことのある受講者の経験を共有したりしていた。

午後からは、シミュレータを用いて、循環器疾患患者への対応シミュレーションを行った。

シミュレーション後のデブリーフィングでは、自分の考えを述べたり、他者からの意見を聞いたり、自由に意見交換する中で、自己の実践や思考のパターンに改めて気づくことができる機会となっていた。「今さら聞けない」「じっくり振り返る時間がない」といったような臨床現場では、経験できにくいリフレクションの場となっていた。

第2回の「気管挿管・呼吸音聴取トレーニング」では、タスクトレーニング中心の内容とした。臨床現場では毎日、呼吸音聴取を行っている。しかし、

卒業生の声として「副雑音をしっかり聞き分けられていない」、「患者さんの疾患や看護のケアに活かしていない」などが挙がっていた。そこで、本研修として「呼吸音とは」という基礎から学び直すという内容を企画した。まず、レクチャーを通じて、いまさら聞けない呼吸の基礎について受講者で知識の再確認・整理、共有を行った。その後、シミュレータを用いて、正常呼吸音や異常呼吸音の聴取を、何度も何度も受講者の気が済むまで行った。受講者は、臨床での経験や疾患と関連させながら呼吸音聴取を行っており、日々の実践につながるトレーニングの機会となっていた。

続いて、気管挿管助動トレーニングでは、医師が行うことが多い気管挿管を、受講者も医師役として行った。気管挿管を行う立場から、どのような介助が必要とされるのか、経験から学ぶことに繋がっていた。受講者は交代で何度もトレーニングを行い、必要な知識や技術は何かについて考えていた。納得するまで何度も練習できるのは、失敗が許されるシミュレーションならではの、失敗しても構わないという安全な学習環境を提供することができた。

第3回の「急変対応（転倒/窒息）」では、病棟で、“あるある”な状況設定で行った。学習効果を上げ



図3 挿管助動のトレーニング



図4 転倒場面のシミュレーション

るために重要なフィデリティ(忠実性)を高めるため、実習室に工夫を凝らし、リアルな模擬病室を再現した。夜勤中の設定とし、教員が模擬患者となってシミュレーションを行った。一般病棟で起こりやすい患者の転倒場面、食事中の窒息場面を取り上げたシミュレーションだったため、自身の経験に基づいて対応する姿もあった。実際の病室に近い環境で夜勤中という設定のため、照明をおとして行った。そのため、受講者は緊張感をもってシミュレーションを行うことができていた。受講者はシミュレーションの設定について、「リアルで焦った」、「頭では分かっているけど、緊張するとあんなに出来ないとは思わなかった」などと述べており、体験して学ぶことの重要性が改めて確認できた。そして、受講者はシミュレーションを通して、とっさの判断、最優先にすべきこと、メンバーへの連絡方法など、自身の行動を再度じっくり振り返る機会となっていた。デブリーフィングでは、基本的な知識を振り返りながら、患者にとって安全・安楽な対応、急変の場面でも“患者によりそう”対応について、活発な意見交換がなされていた。

今年度は、受講者に事前アンケートと事後アンケートを実施した。

事前アンケートでは、本研修に参加した動機、本研修に期待することを尋ねた。事後アンケートでは、①本研修は興味を引く内容であったか、②本研修は日々の仕事の役に立ちそうな内容だったか、③本研修を受講して、やれできそうだと思えたか、④本研修を受講しての満足度の4項目を「ARCS動機づけモデル」を参考に設定し、プログラム評価とした。また、事前アンケートで尋ねた、本研修への期待は応えられたかどうか尋ねた。受講前に事前アンケートを提示した目的は、明確な意図、目的をもって受講してもらうことが、学習効果を高めることにつながるとともに、受講後の自己の変化にも気づいてもらいやすいためである。事前アンケート結果の内容としては、受講動機として「プリセプターになり、教える立場として基本的知識を再確認したいから」、「基礎知識を身につけるため」、「自信がないから」という内容が多くみられ、本研修受講によって「基礎知識を復習する」、「アセスメント能力を身につける」、「根拠を持って考えられるようになる」ことを期待されていた。事後アンケート結果①～④の項目は、概ね“そう思う”と評価され、事前に期待したことは、受講により応えられた、と評価されていた。アンケート結果から、受講者が参加してよかったと



図5 実践を振り返る(デブリーフィング)

思えるプログラムであったのではないかと考えられるが、今後も、より一層魅力あるプログラムを提供できるよう、教員間で協力、研鑽していきたい。

日々、臨床現場で様々な困難に向き合い、看護の魅力を見失いそうになることもあるかもしれないが、そんな時は、『たちばなSIM』に来てほしい。知識や技術の再確認ができ、自分の看護実践を仲間とともに振り返り、看護の楽しさを再確認できる場

がここにある。看護師としてこれからも病と闘う人々の支えになり、専門職者としてキャリアアップしていく卒業生たちを支える場づくりにこれからも取り組んでいきたい。

京都橘大学看護学部 専任講師 野島 敬祐
深山 つかさ
マルティネス 真喜子

■通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座

『看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始した。2013年度は個人指導としたが、2014年度からは、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、グループ演習を中心に展開している（資料3参照）。

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、レポート作成のプロセスに添い、STEP1《テーマを絞る》、STEP2《レポートのアウトラインの作成》の2回で、グループで学習する。開講時期は、5～6月であり、各STEPの間は1ヵ月あけ、受講者が課題意識を持って取り組めるようスケジュールを設定している。担当者は、本学教員ならびに、通信教育課程を担当する教員であり、STEP1 STEP2、ともに同じ受講者を担当するようにしている（表1参照）。

表1 プログラムの概要

STEP1：《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考について（講義）	講師：梅本
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：植村、伊藤、鈴木
		B日程講師：梶谷、鈴木
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15(休憩15分含)	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：植村、伊藤、鈴木
		B日程講師：梶谷、鈴木

2. 受講者数

受講者数は、A日程は10～13名で3グループ編成、

B日程は5～8名で2グループ編成とした（表2参照）。

各グループの人数は、3～5名であった。

表2 受講者数とグループ数

	日程	時間	受講者	グループ数
STEP1	A日程：5月17日（火）	10:45～16:15	13名	3
	B日程：5月26日（木）	13:00～16:15	8名	2
STEP2	A日程：6月14日（火）	10:45～16:15	10名	3
	B日程：6月23日（木）	13:00～16:15	5名	2

3. 受講の目的、理解状況

通信教育課程看護学コース 学修成果レポート作成サポート講座受講時のアンケート調査をもとに、受講の目的、講座で理解できたこと、理解しにくかったこと、受講した感想をまとめた。アンケート調査の回答数はA日程のSTEP1が17、STEP2が8、B日程のSTEP1が8、STEP2が6だった。複数の内容のものは、分けて集計した。また、各項目の無回答は、削除した。

1) 受講の目的

受講目的は、表3のように、STEP1では「レポートの書き方がわからないため」「1人でのレポート作成に不安があったため」が多く、STEP2では「テーマ内容の具体的指導がほしい」「1人でのレポート作成に不安があったため」が多かった。本講座は、レポート作成のステップに添い展開しており、受講生は、講座のゴールに向かい、レポート作成に取り組んでいたと考えられた。

表3 受講の目的

STEP1		STEP2	
回答	数	回答	数
・レポートの書き方が分からないため	8	・レポート内容の具体的指導がほしい	5
・1人でのレポート作成に不安があったため	4	・1人でのサポート作成に不安があったため	5
・学士申請に向けて準備のため	2	・step1が良かったから	1
・キャリアアップのため	1	・レポートの書き方が分からないため	1
・同じ境遇の方と話したいから	1	・仕事にも役立つと考えたから	1
・単位習得に向けてのモチベーションを維持するため	1	・学士申請に向けて準備のため	1
・テーマの妥当性についての意見がほしい	1		

2) 本講座で理解したこと

本講座で理解できたこととして挙げられたのは、表4のように、STEP1では「テーマの絞り方」「文章の書き方」「レポートの書き方」が多く、STEP2

では「レポートのアウトライン」「レポートの内容」が多かった。各STEPのゴールに加え、学位取得のため、論理的な文章を書くことの必要性の理解が大きかった。

表4 理解したこと

STEP1		STEP2	
回答	数	回答	数
・テーマの絞り方	7	・レポートのアウトライン	8
・文章の書き方	7	・テーマの選定	2
・レポートの書き方	5	・レポート作成の注意点、	1
・文献の探し方	3	・内容の方向性	1
・学士取得までに行うべきこと	3	・レポート作成の時間配分	1
・論理的思考	2	・文献の書き方	1
・レポートのアウトライン	2		
・グループで支えあう必要性	1		

3) 本講座で理解しにくかったこと

本講座で理解しにくかったことは、表5のように、「とくになし」という回答が多かった。少数ではあるが、STEP1では「アウトラインの絞り込み」、STEP2では「具体的なイメージができない」など、

各STEPのゴールに到達しないと読み取れる回答もあった。事前の準備の周知の不足があったことや、本講座の主目的ではない、学位授与機構への申請の事務的手続きなどへの助言等に時間を費やしたことも原因と考えられ、次年度への課題となった。

表5 理解しにくかったこと

STEP1		STEP2	
回答	数	回答	数
・とくになし	4	・とくになし	4
・アウトラインの絞り込み	1	・学位授与機構への申請の仕方	2
・テーマの絞り込み	1	・具体的なイメージができない	1
・自分の思考の整理	1	・わからないことがわからない	1
		・結論	1
		・言いたいことを文章にすること	1

4) 受講した感想

受講した感想は、表6のように、STEP1では「グループワークで、仲間の意見が聞けて・励ましあえてよかった」「丁寧・わかりやすい指導だった」が多く、STEP2では「レポート作成のサポートをもっとしてほしい」「頑張ってレポート作成したい」「丁寧・わかりやすい指導だった」が多く、講座に好意

的な意見が多かった。

その他、本講座の学習形態の意見として、グループワークへの肯定的意見が挙げられており、本講座のねらいと合致していた。一方、レポート作成のプロセスのサポートを要望する意見が多く、受講生のサポート作成の不安が大きいと考えられ、次年度に向けた課題である。

表6 受講した感想

STEP1		STEP2	
回答	数	回答	数
・グループワークで、仲間の意見が聞けて・励ましあえてよかった	5	・レポート作成のサポートをもっとほしい	4
・丁寧・わかりやすい指導だった	4	・頑張ってレポート作成したい	3
・何となくわかった	3	・丁寧・わかりやすい指導だった	3
・STEP2以降もフォローしてほしい	2	・レポートで書く内容を話してアドバイスをもらい、具体的になった	2
・文章の書き方の講義が大変興味深く勉強になった	1	・前回と同じ先生に指導、アドバイスいただけて良かった。	1
・レポート完成まで頑張ろうという意欲が高まる講座だった	1	・レポートの書き方を詳しく教えて欲しい	1
・レポート・小論文の意味が理解できないので、教えて欲しかった。	1		
・考えがまとまった	1		
・グループワークの具体的な内容を提示してもらえたら、準備ができた	1		
・学士を取得することが、これからの生き方に役立つと信じている	1		

4. まとめ

本講座のプログラムは、レポート作成のステップに添い、2ステップの間に1ヵ月あけ、展開している。

1) 受講目的は、これまであまり学習機会がなかったレポートの書き方やレポートテーマの設定に関するものが多く挙げられた。また、2) 受講して理解できたことは、STEP1では「テーマの絞り方」「文章の書き方」「レポートの書き方」、STEP2では「レポートのアウトライン」など、STEP1、STEP 2で設定したゴールに概ね到達したと考えられる回答が多かった。受講生の動機やレポート作成の進捗の目安となるプログラムだと考え、次年度もほぼ同じ形態で開講することを考えている。

本講座の学習形態は、3～5人の受講者グループに担当講師が1人つく、グループ学習を基本としている。また、STEP1、STEP 2の担当講師は、変わらないようにしている。4) 受講した感想は、「グループワークで、仲間の意見が聞けて・励ましあえてよかった」「丁寧・わかりやすい指導だった」など、「同じ境遇」の仲間や担当講師とのディスカッション、出会いが、レポート作成に効果的だったことがうかがえる。本講座で、通信教育のe-learningでは得られないものを学び、学士申請の動機づけの強化につながったと考えられる。年々看護学コース科目等履修で単位取得学生の増加により、本講座の受講者数の増加が想定される。そのため、引き続き学習サポートの教育環境（人的・物的）の整備が必要である。

本講座の課題として、課題として、以下3点が挙げられた。1つ目は、学士申請に必要な事務手続き

や文献検索の説明に時間がかかり、講座の主目的のディスカッションの時間が少なくなっていることである。そのため、次年度は、講座前に、学士申請に必要な事務手続きに等に関しては通信課程による、文献検索は図書館司書による、web講座を開講する予定である。そして、受講生に、事前に学位申請やレポート作成に必要な情報を主体的に得てもらうことで、講座の主目的に取り掛かる時間を確保して、受講生が各STEPのゴールに到達するように整備していく予定である。2点目は、レポート作成についてである。現在、「論理的思考について」の講義をしており、受講者の理解度もよい。そこで、次年度は、「論理的思考について」を担当する講師に、レポートの書き方も含めた内容で講義をしていただくよう調整を行っている。これにより、受講者のレポート作成の概略を理解することを狙う。3点目は、レポート作成へのサポートの充実の検討である。受講生からは、レポート作成までのサポートを要望する意見が多い。しかし、担当講師のマンパワーの都合上、これ以上のレポート作成のサポートのプログラムを設定することが難しい現状である。そこで、対策として、各STEPで実施する内容をより詳細に提示することで、受講者の準備性を高め、講座のゴールに到達できるよう、整備を行っていく予定である。また、レポート作成の参考になるテキストを作成する予定である。

看護学部看護学科 専任講師 植村 由美子

資 料



けいはん 京大
京都大学

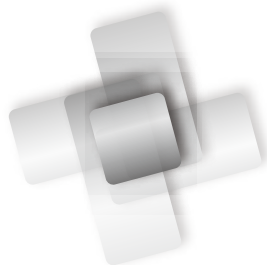
2016年度

京都大学看護教育研修センター 看護キャリア開発事業

「看護研究支援」研修

ごあんない

研究の「技」を学び、より発展させる



担当事務・問い合わせ

京都大学看護教育研修センター
看護キャリア開発事業担当

TEL&FAX: 075-574-4133

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

T 607-8175 京都市山科区大宅山田町34
※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)

資料 1

看護職各位

京都大学看護キャリア開発事業 看護研究支援のご案内

2005年、本看護学部は京都府下初の私立大学看護学部として誕生し、2015年に開設10周年を迎えました。卒業生も7期553名を輩出し、2012年度からは、卒業生および地域の看護職の皆様へのキャリアサポートを目的に、看護キャリア開発事業を展開しています。

その事業の1つである「看護研究支援」は、臨床における看護研究をサポートするために、段階的に以下の4コースを設定しています。それらの概略は、研究初心者を対象に看護研究の基礎を学ぶ「ベーシックコース」、テーマ設定から院内研究発表までをサポートする「アドバンストコース」、プラクティスコースを発展させて院外研究発表までをサポートする「アドバンストコース」の院内の研究指導者をサポートする「院内研究指導者コース」です。本事業は、一般的な看護研究に関する研修より、少し時間を多くかけて計画的に系統的に学習するプログラムになっています。今回は、研究初心者向けの「ベーシックコース」をご紹介します。

背景は、日々、自分（達）の研究テーマにピッタリの研究方法がないものか文献を探し読んだり、看護研究に関わる研修を受講したりと、暗中模索、試行錯誤しながら、とりあえず研究を進めなければならない、時間外の作業になる、締切時期が迫るなど、制約された中で頑張って研究に取り組んでおられることと思います。

「ベーシックコース」では、本看護学部によるオリジナル教材（Notebook）を作成し、研究をするための「ノウハウ」を学ぶことができます。学習項目は一般の看護研究の研修と同様ですが、今までは少し視点が異なっている箇所もあり、看護研究やその進め方のイメージを伝える機会になるかもしれません。看護技術と同じように、研究の「技」を学び、経験を重ねて、研究ノウハウを身につけていただければと考えています。

研究をされている方、研究を指導する立場になれる方が、研究の基礎を学び直し、今後の研究の準備・助走として、「ベーシックコース」を展開しています。

また、このコースで学ばれた後に、我々が実際の研究をサポートする「プラクティスコース」や「アドバンストコース」において、より実践的に研究を学ぶことで、研究の「技」を段階的に習得していただくこともおためです。

京都大学看護教育研修センター

研究のねらい 研究を行う準備段階で、看護研究の基礎を学び、実際の研究の土台とする研修プログラムです。

研修のねらい 研究のねらい

研修の対象 大学院での開講への個人の申込、施設への講師派遣の申込が可能です。

研修の申込 必要書類に記入し、パンコからのメール承認連絡を要しています。

ページワーク コース

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月10日(火)	9:00	1) 現場における研究の意義	①研究の意義	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月7日(火)	9:00	2) 研究テーマの考え	②研究テーマの考えと設定	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月5日(火)	9:00	3) 文獻検索	③文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	①～③文獻検索は、原則として、講師派遣の場合も京都府立大学内で実施してください。
4	7月19日(火)	9:00	4) 文獻調査	④文獻調査の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月2日(火)	9:00	5) 文獻調査	⑤文獻調査の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	9月6日(火)	9:00	6) 研究倫理と研究計画	⑥研究倫理と研究計画	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	10月4日(火)	9:00	7) 研究のまとめ	⑦研究のまとめ	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

大分県立看護科学大学2016年7月29日(金)まで申込受付(必着)

ブラクティス コース

研究のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。

研修のねらい 研究のねらい

研修の対象 大学院での開講への個人の申込、施設への講師派遣の申込が可能です。

研修の申込 必要書類に記入し、パンコからのメール承認連絡を要しています。

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月10日(火)	9:00	1) 研究テーマの設定	①研究テーマの設定	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月7日(火)	9:00	2) 文獻検索・レビュー	②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月5日(火)	9:00	3) 研究デザイン・方法	③研究デザイン・方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月19日(火)	9:00	4) 研究における倫理的配慮	④研究における倫理的配慮	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月2日(火)	9:00	5) 研究計画書の作成	⑤研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	8月16日(火)	9:00	6) 研究データの収集	⑥研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	9月6日(火)	9:00	7) データの分析	⑦データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
8	9月20日(火)	9:00	8) 研究のまとめ	⑧研究のまとめ	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
9	10月4日(火)	9:00	9) 研究発表	⑨研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

大分県立看護科学大学2016年7月29日(金)まで申込受付(必着)

研究のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。

研修のねらい 研究のねらい

研修の対象 大学院での開講への個人の申込、施設への講師派遣の申込が可能です。

研修の申込 必要書類に記入し、パンコからのメール承認連絡を要しています。

アドバンス コース

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月10日(火)	9:00	1) 研究テーマの設定	①研究テーマの設定	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月7日(火)	9:00	2) 文獻検索	②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月5日(火)	9:00	3) 研究デザイン・方法	③研究デザイン・方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月19日(火)	9:00	4) 研究における倫理的配慮	④研究における倫理的配慮	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月2日(火)	9:00	5) 研究計画書の作成	⑤研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	8月16日(火)	9:00	6) 研究データの収集	⑥研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	9月6日(火)	9:00	7) データの分析	⑦データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
8	9月20日(火)	9:00	8) 研究のまとめ	⑧研究のまとめ	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
9	10月4日(火)	9:00	9) 研究発表	⑨研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

大分県立看護科学大学2016年7月29日(金)まで申込受付(必着)

研究のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。

研修のねらい 研究のねらい

研修の対象 大学院での開講への個人の申込が可能です。

研修の申込 必要書類に記入し、パンコからのメール承認連絡を要しています。

院内研究 指導者コース

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月10日(火)	9:00	1) 研究テーマの設定	①研究テーマの設定	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月7日(火)	9:00	2) 文獻検索	②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月5日(火)	9:00	3) 研究デザイン・方法	③研究デザイン・方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月19日(火)	9:00	4) 研究における倫理的配慮	④研究における倫理的配慮	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月2日(火)	9:00	5) 研究計画書の作成	⑤研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	8月16日(火)	9:00	6) 研究データの収集	⑥研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	9月6日(火)	9:00	7) データの分析	⑦データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
8	9月20日(火)	9:00	8) 研究のまとめ	⑧研究のまとめ	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
9	10月4日(火)	9:00	9) 研究発表	⑨研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

大分県立看護科学大学2016年7月29日(金)まで申込受付(必着)

・受講申込は、個人でも施設経由でも可能です。

・施設経由の場合は講師の施設派遣も可能です。ただし受講料とは別に交通費として実費相当額(大学から施設までの交通費。タクシー利用の場合は往復タクシー料金を)をお支払いいただきます。

なお、施設への講師派遣の場合、別途契約書を締結させていただきます。

原則として、納入された受講料金はお返しいたしません。

・申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送、Fax、Emailにて担当事務宛へお送りください。

・受講料金は、受講申込後、担当事務より支払方法をご案内いたします。

申込に関して

資料2

卒業生の皆様



京都橋大学看護教育研修センター
所 長 梶 谷 佳 子

京都橋大学看護キャリア開発事業『たちばな SIM 2016』のご案内

本学では、2012 年度から看護キャリア開発事業を開始し、本学部の卒業生に貢献する事業としてシミュレーション教育を開催しています。2015 年度からは、名称を「Skills Lab」から「**たちばな SIM**」としました。SIM とは、「simulation」の略です。学び舎・京都橋大学でシミュレータ(模擬患者)を用いるなど、実践に即した看護を学習する機会・場にしたという思いからです。

『**たちばな SIM**』の特徴は、単独の看護技術(Skill)を習得するだけでなく、対象に適切な看護を提供できるよう、アセスメントを学び、看護実践力を強化することを目的としています。今までに研修に参加した卒業生は、看護に関する知識や技術の基本を再確認する機会にしてくれています。また、多くの施設で働く仲間(先輩や後輩)と一緒に学ぶことを通して、看護実践を見つめ直し、自信を持つ機会ともなっています。臨床では聞きにくいことに、シミュレータなどを用いて看護を実践するため、十分な時間をかけて実践を振り返ることが出来ますし、失敗しても繰り返して学ぶことも出来ます。

2015 年度からは、新人看護師にも対象を広げて開催しています。看護経験年数に関わらず、みんなが協力しながら、看護職としてさまざまな状況・場面に応用できる基本的な知識・技術・態度を気軽に学びましょう。また、先輩と後輩、教員が軽食をとりながら交流したり、気軽に質問したりする時間と場も設けています。所属施設での研修にプラスして、学んでみませんか、皆様の参加を、心よりお待ちしております。

1.研修内容、開催日時

回	研修内容	開催日時
1	*看護機能のデジタルアセスメント	5 月 15 日(日) 10:00-16:00
2	*呼吸機能のデジタルアセスメント	6 月 5 日(日) 10:00-16:00
3	*急変時の看護	7 月 31 日(日) 10:00-16:00

2.参加費 卒業生：1 人 1 回 2,000 円 昼食弁当付

3.参加定員 1 回 20 名

4.申込期間・申込方法

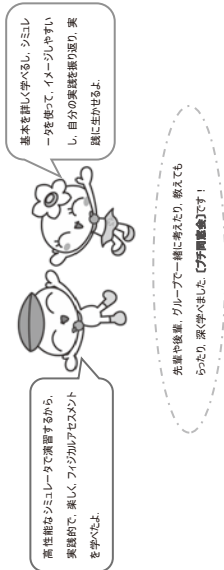
申込期間：随時受付（定員になり次第、締め切ります）

申込方法：E-mail, Fax, または郵送

- ・別紙『たちばな SIM』2016 申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail, Fax, または郵送にて、下記宛お申し込みください。
- ・受講料金は、受講申込後担当事務より支払い方法をご案内いたします。

申し込み・問い合わせ先
京都橋大学 看護教育研修センター
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
E-mail: 3academc@tachibana-u.ac.jp
TEL&FAX: 075-574-4133

※ 参加証受領後欠席する場合は、必ず前日までに上記宛にご連絡ください。



資料3

【お申し込み・お問い合わせ】

申込期間：2016年3月16日（水）～2016年4月15日（金）※期間内必着
申込方法：別紙の申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、FAX、または郵送にて
下記までお申し込みください。申込受付後に振込用紙を郵送いたします。

京都橋大学 看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp
TEL & FAX: 075-574-4133 ※9:00～17:00（土・祝日は除く）

2016年度看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座

京都橋大学看護教育研修センター

京都橋大学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんが、大学評価・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要で

学修レポート作成にむけて、何を書こうか、どのように進めていったらよいかなど、不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。そのような方々をサポートする講座を開催いたします。

この講座は、学修レポート作成のスタートを応援するものです。個人指導ではなく、グループワークで学習を進めます。学位申請という同じ悩みを持つ人が互いに支えあうネットワークを作ってください。そして、受講後は、互いに支えあって学修レポート作成に取り組んでください。

【受講対象者】

本学の科目等履修生「看護学コース」を修了された方および修了見込の方で、
2016年10月期申請または2017年4月期申請を予定されている方。

※通信教育課程の前修科目修了試験は9月上旬に実施されます。

開校中の方は申し込みと学修計画を立てて、看護学コースの科目修了試験に向けての勉強および

学修成果レポートの作成を進めてください。

※未修得単位があり、2015年度に在籍期間延長予定で本講座の受講を希望される方は、事前に通信

教育課にお問い合わせください。

TEL: 075-574-4335 ※9:00～17:00（土・日・祝日は除く） E-mail: admin@tachibana-school.jp

（講座申し込み先ではありませんのでご注意ください）

【日程およびプログラム】

2セットを開催します。A日程、B日程のいずれか一方を選んでください。

※2セットの受講はできません。

	STEP1	STEP2	開催場所
A日程	2016年5月17日(火)	2016年6月14日(火)	京都橋大学
B日程	2016年5月26日(木)	2016年6月23日(木)	

A日程、B日程いずれも2日間の学習プログラムです。STEP2のみ受講はできません。

STEP1：《テーマを絞る》	
10:30～12:00	論理的思考について(講義) 講師：京都橋学園理事長
13:00～16:15 (休憩15分含)	レポート作成にむけたグループ指導 (グループワーク) 講師：京都橋大学教員
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》	
13:00～16:15 (休憩15分含)	レポート作成にむけたグループ指導 (グループワーク) 講師：京都橋大学教員

※受講前に、学位授与申請案内『新しい学生への送』を確認しておいてください。

※レポートの形式等について記載されています。

※学位申請に関する手続き等については、大学評価・学位授与機構にお問い合わせください。

【受講料】

STEP1のみ	STEP2のみ
15,000円	30,000円

※STEP2のみの申込はできません。

京都橘大学看護教育研修センター 年報2016

発 行：2017年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/